St. Luke's International University Repository

聖路加看護大学年報: 2008年度（平成20年度）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-01-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/4728

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

Ⅵ 研究活動

1．研究活動

1）教員の研究業績・実践活動

本年度より教員の「教育研究活動・社会活動業績」は、図書館の「聖路加看護大学研究成果リポジトリ（SLCN e－Quilt)」に掲載する。

http://arch.slcn.ac.jp

2）博士論文・修士論文

・修士論文（2008年９月修了）

【看護学専攻】

氏　　名	題　　名
寺井美峰子	医療事故発生後に看護職能団体が支援した医療機関における医療事故への対応と組織再建過程に関する記述的研究

・修士論文（2008年９月修了）

【ウィメンズヘルス・助産学専攻】

氏　　名	題　　名
光武　智子	ダウン症児を出産した母親に関わった助産師のケアとその背景

・修士論文（2009年３月修了）

【看護学専攻】

氏　　名	題　　名
伊東美奈子	中堅看護師が転職前に行う予測と転職後に遭遇する現実との相違の構造化
井ノ下　心	化学療法を受ける再発白血病患者の有害事象へ対する対処行動の構造化
小泉　　麗	重症心身障害児の胃瘻造設に関する母親の意思決定過程の理論化
三瓶舞紀子	精神科看護師が認識する自傷行為を行った患者に対して行う意図を含む看護行為の理論化 －パーソナリティ障害・適応障害等の障害をもつ患者への看護を中心に－
関根小乃枝	交替制勤務の病棟看護師に対するワーク・ライフ・バランス施策導入の成功要因に関する考察
関根　由紀	人工呼吸器離脱過程における心不全患者の取り組みの構造化
三浦友理子	新卒看護師の学びの構造
山口　綾子	カンボジア王国シェムリアップ州の５歳未満児を持つ母親の育児行動
岡本　典子	SBS（social behaviour schedule)日本語版の信頼性・妥当性の検証 －訪問看護サービスを利用する精神障害者の社会行動の評価－
吉川奈緒美	看護基礎教育における「日常生活の援助技術」に関するミニマム・エッセンシャルズ －体位変換、清拭、寝衣交換について－

【ウィメンズヘルス・助産学専攻】

氏　　名	題　　名
青柳　優子	不妊治療後の産婦に対する助産師の意識と実践
飯田真理子	当事者による妊娠中の“女性を中心としたケア”の認識
清水　　彩	家族のエンパワーメントをサポートする NICU 看護 －家族の認識に基づいて－

・課題研究（2009年３月修了）

【看護学専攻】

氏　　名	題　　名
柏田　孝美	終末期がん患者の療養場所における意思決定
鈴木　理恵	皮膚表面に露出した腫瘍－Malignant Fungating Wounds－をもつ 進行がん患者のアセスメントと看護ケアについて：文献レビュー
竹田　佳子	病院看護職に対する児童虐待の継続教育支援について
福宮　智子	国外におけるリエゾン精神看護の有用性に関する文献レビュー －効果量の観点から－
本井　多希	同種造血幹細胞移植を受ける患者の栄養に関するアセスメントとケアについて：文献レビュー
片岡　　光	抗がん剤誘発遅延性悪心・嘔吐を発症した患者のアセスメント：文献レビュー
龍　　里奈	65 歳以上高齢者におけるうつに関連する要因の分析 －特定高齢者判定項目を中心に－
宮本千恵美	がん末期患者を支える在宅緩和ケアチームの構築過程と訪問看護師のかかわり

【ウィメンズヘルス・助産学専攻】

氏　　名	題　　名
新井　香里	周産期における児童虐待の早期発見に向けたケンプ・アセスメントの実用の可能性
吉沢　文芳	周産期における在日中国人女性に対するケア　－事例を通して－
大橋　澄子	周産期医療事故時の対応と再発防止に関する助産師向け学習教材の開発
菅原　真澄	分娩に立ち会う幼児の行動
鈴木　安代	PRECEDE－PROCEED モデルを用いた都市部の妊婦への出産準備クラスの開発
仙波百合香	腰痛を持つ妊婦に対するエビデンスに基づいたケアの検討
新田　祥子	看護職者の遺伝及び遺伝教育に対する捉え方 －いのちの教育を実施している看護職者のフォーカスグループインタビューを通して－
福富　規子	助産師主導ケア実践施設における妊婦の受入れ基準インデックスの開発
古川　直美	母乳育児に関する文献レビュー －母親の意思決定を支えるエビデンスに基づいたケア－
松本　千香	DV 対策に組織的に取り組んでいる医療機関の実際と課題
涌井　恵美	聴覚障害を持つ産婦に対する分娩期ケアの考察

・博士論文（2008年９月修了）

氏　　名	題　　名
辻　　恵子	出生前検査を考慮する妊娠中の女性のための決定支援プログラムの効果
大金ひろみ	末期がん患者の配偶者への『情報提供ガイドを用いた在宅移行支援プログラム』の開発

・博士論文（2009年３月修了）

氏　　名	題　　名
石村佳代子	地域で単身生活を維持している男性統合失調症患者の対人関係の構造
小野若菜子	家族介護者に対して行うグリーフケアと先行要因、アウトカムの関連 －訪問看護ステーションに勤務する看護師への全国質問紙調査から－
谷口　珠実	下部尿路症状を有する女性患者における骨盤底筋訓練の継続に関する因果モデルの検証
小林　康江	妊娠末期から産後４か月にいたる母親同一性の獲得に影響する要因
藤原ゆかり	Evaluating Quality of Childbirth Care by Women from Culturally Diverse Backgrounds Living in Japan: Towards Developing Culturally Congruent Care in Becoming a Multicultural Society
太田　尚子	ペリネイタル・ロスのケアに関する看護者教育プログラムの効果 －ランダム化比較試験－
西田みゆき	排便障害児の母親のためのエンパワーメント看護介入プログラムの開発

・論文博士（2008年９月）

氏　　名	題　　名
村上　好恵	遺伝性大腸がんに関連した遺伝子検査の結果開示後の精神的苦痛と罪責感

３）学部卒業論文

・総合看護・看護研究Ⅱ（2009年３月卒業）

氏　　名	題　　名
青野　睦子	病院ランキング本の役割と課題について
新井麻奈美	デートＤＶに関するピアエデュケーションの試み
有路　幸恵	Centering Pregnancy に関する文献検討
猪俣亜紀子	不妊当事者自助グループ、サポート・グループの効果や特徴及び看護職との協働の在り方に関する文献検討
今泉　綾乃	ナラティブによる自己認識変容の分析
上野真由美	肺がんを告知され化学療法を受ける患者の心理過程に応じた効果的な看護援助の検討
浦巽　　文	高齢者の終末期がん患者のその人らしい日常生活行動の実現のための看護師の関わり方 －緩和ケア病棟の看護師の視点から－
枝　　晃司	親子キャンプに参加した子どもの成長と自然体験活動が親子関係に与える影響に関する研究

氏　　名	題　　名
緒方　綾乃	子どもにとって効果的な診察前プレパレーションの考察－自作の紙芝居を用いた診察前プレパレーションにおける、幼児期の子どもとその家族への看護援助とその影響から－
荻野由加里	壮年期男性の健康に対する考え方と運動習慣について
長田詩穂理	一般病棟における高齢者終末期ケアの質の向上に関わる要因
織田　瑛子	AEDによる救命活動推進のための一考察－救命活動に対する意識調査から－
加島　千愛	ICU環境における騒音と照明の実態調査
加藤　章子	障害を持った子どもの取り組みと看護師の関わり
加藤亜紗子	リンパ浮腫のある終末期がん患者の全人的苦痛を軽減させ、QOLを高める看護援助の検討
金重　亜子	National Health Education Standards と日本の性教育における課題についての研究
神山　純子	持続経腸栄養中の ICU 患者における胃残量の増加と人工呼吸関連肺炎発生の関係に関する検討
木原　未稀	看護実習における学生の沈黙の感じ方と対処行動－実習経験の違いに焦点をあてて－
木村真紀子	日本のプリセプターシップにおけるプリセプターに関する研究の動向とその現状
草深　志帆	満足な出産に関わる要因の検討－夫婦で出産を経験した３組の事例から－
小松　美緒	若者が STD（性感染症）に関する情報源として遭遇する検索上位サイトの信頼性の分析と課題
近藤　華子	長期子どもキャンプでみられた子どもたちの変化に関する研究 －自然・大人・子ども同士の関わりが子どもたちに与える影響について－
坂　　温子	訪問看護における満足度の高いターミナルケアの検討 －療養者･家族と訪問看護師の思いを通して－
榊原　杏子	不安の強い統合失調症患者に対する看護支援
佐藤　　鏡	アダルトチルドレンの回復に向けた、看護師の治療的な関わり方の考察
佐藤真以子	健康推進員と保健師の協働関係－健康推進員の抱く認識に焦点を当てて－
志賀　紀恵	手記からみたアルコール依存症者の子どもの心理の変化
篠　真優子	フィリピン・スラム在住の成人の高血圧とその知識について
篠田奈緒子	患者-看護師間における信頼関係構築のための「自己開示」というコミュニケーション方法について
下田　絢子	在宅療養希望がある終末期がん患者とその家族に対する在宅への移行期における効果的な退院調整の検討
杉山　　愛	日本において外国人看護師との協働についての課題と適応要素の明確化、及びより良い関わり方についての研究
鈴木　綾乃	アルツハイマー型認知患者の専門外来初診までの経緯と看護援助を考える －家族と受け持ち看護師へのインタビュー調査をもとに－
鈴木　美穂	痛みや苦痛を伴う検査や処置における自閉症児に対するプレパレーション －採血場面におけるプレパレーションの検討－
高野瀬まり	新卒看護師が半年間で経験した死後のケアにおける精神的・技術的変化とその要因

氏　　名	題　　名
高橋　理沙	手術室看護師が仕事でやりがいを感じるとき －手術室看護の良さとは何か－
高山　友子	医師が回答するQ&Aサイトにみる患者の家族の病い体験を中心としたコミュニケーションのあり方
田中　優美	日本人青年渡航者の健康不安と携行医薬品
谷岡　佑紀	ペアレンティングプログラム　－その実際と看護への応用－
玉置　真緒	Blogから見た、妻の妊娠期における夫の思いの考察
塚野　理実	話すという行為が障害されたことによって失語症患者に生じる因子の検討
土屋早野佳	遷延性意識障害患者における入眠を促す援助としての足浴の効果の検討
綱渕　奈緒	青年期の同性愛者におけるカミングアウトとセクシャリティへの認識のプロセス
長井　理恵	入院患児のきょうだいへの援助のあり方を考える －小児病棟での実習を通して－
長江麻友子	男性高齢者の生きがいを見出すプロセス
滑川　沙織	がんターミナル期にある患者と関わる看護学生の心理的体験とその対処 －ブログ記事と看護教育関連の文献による分析－
新見　博子	看護師経験が１年目から２年目になるときの気持ちや行動の変化についての研究
西之宮千春	妊婦健診における開業助産師の父親への支援
野々山いづみ	青年期女性における月経随伴症状の頻度・程度とそれに対するセルフケア状況についての文献検討
橋口　由依	入院患者の思いの伝えやすさと看護師の関わり方の検討
浜岡　亜衣	先天性心疾患が出生後に明らかになった児の母親と家族に対して行われているケアと看護者の思い
日田このみ	遺伝サポートグループのメンバーが医療者との交流、また遺伝サポートグループ同士の交流で得られたこと
平戸　　藍	マニラのスラム地区のDOTSパートナーの活動と困難
福田　　彩	入院することがきょうだいに与える影響ときょうだいへの支援の在り方の検討
藤澤　朋美	オンライン・コミュニティからみた海外駐在員妻の孤独感の要因と支援
船津　幸恵	配偶者と死別後の高齢女性が新しい一人の生活をつくりあげていくプロセスと家族以外の身近な他者との交流関係－死別後２年半を経過した１事例を通して－
松村　奉子	小児がんの子どもの看取りを経験する看護師の支えとなるもの －看取りを経験した看護師の思いから－
南澤　ゆい	一般病棟で骨転移の告知を受けたがん患者の主体性の発揮を促す看護の考察
宮崎　里美	ICU環境における騒音と照明の実態調査
宮田ゆりえ	在宅ホスピスにおける患者と家族の自然な生活を支えるチームケア
村岸　美沙	低出生体重児の母親が児の退院後に抱く思いに関する文献検討

氏　　名	題　　名
柳橋　千明	保健室登校における養護教諭に求められるもの －保健室登校児の母親と図工室登校を受け入れた教師へのインタビューを通して－
山田　知美	背面開放座位が自律神経活動に及ぼす影響 －両足底を床面に設置させ、頸部自力保持した背面密着座位との比較－
吉松　佑佳	認知症高齢者に対する音楽療法を日常生活に活かす看護師の役割
若林　絵美	学童前期（７歳～９歳）の喘息児に対する、内服治療継続のセルフケア行動獲得に向けた看護援助
若宮　智美	救命救急センターICU における人工呼吸管理中の患者の不穏発生率と鎮静期間に与える影響
脇阪　美帆	在宅難病療養者の主介護家族の介護負担感と介護継続要因に関する質的研究 －療養者と主介護家族の続柄の違いから－
堀川　　麗	社会生活を送るオストメイトに対する看護支援についての一考察
三橋真理子	児童期の身体的被虐待児の心理適応過程とアタッチメント関係形成について
宮本　祐里	父親との子育てをうまく行うためには？ －夫婦協働の子育てについての文献検討－
五十嵐明子	シフト勤務をする女性の看護職と国際線客室乗務員の比較によるシフト・ローテーション・パターンと職業継続についての一考察
石井　千尋	ナラティブの視点から看護師が患者にパートナーとして期待される役割についての文献検討
上田　直子	市民における一般知識としての遺伝情報の理解に関する一考察
大野富美子	看護職とケアマネジメント
小峰みゆき	HIV 感染者が医療機関で受ける不快な体験とそれに対する看護支援
紺野　　恵	自己管理困難な高齢 CAPD 患者を介護する配偶者の心理状況
白田千佳子	３年次臨地実習における学生の捉え方と現状
関田佳代子	男性看護師の歴史的変遷から見る、病棟での男性・女性看護師のニーズと男性看護師の看護ケアの実態に関する文献検討
丹沢　美樹	フィリピンのスラムにおけるヘルスボランティアの活動 －ボランティア活動を継続する理由と辞めたくなる理由－
塚田　友香	意識レベルの低い高齢患者に対し、看護師が日常的ケアに生活史を組み込んだケアの構造 －QOL 向上を目指して－
徳武　郷子	帝王切開術を体験した褥婦の心理的変化と、褥婦が心理的危機状態を対処していく過程で影響があると考えられる要因および看護ケアについての考察
内藤加奈恵	結腸ストーマをもつ高齢者の自己適応過程における思いの内容とソーシャルサポートについて
中川　理恵	高機能広汎性発達障害の子どもを持つ親が抱く辛い気持ちや苦悩と看護職の役割 －子どもが障害の診断を受けるまでの体験に焦点を当てて－
野田　浩代	A 病院における災害時の対応に関する教育の現状と今後の課題について
肥後直生子	男子大学生における性交時のコンドームの使用状況とその前後の意識及び性教育経験
松木　聡子	救命救急センターICU における気管チューブのカフ圧設定と、抜管後に発症する喘鳴の関係に関する検討
三田由美子	高齢糖尿病患者の自己管理における家族による支援及び家族に向けた看護支援に関する文献検討

氏　　名	題　　名
毛利奈々子	母親が子どもの障害を受容する過程における、看護師が行う心理的ケアと、障害受容に対する認識－より効果的な障害受容の支援のあり方を目指して－
渡邊　麗子	在宅高齢者の足への関心とフットケアミニ講座受講後の変化 －高齢者グループにおけるフットケアミニ講座の実践を通して－

4）受賞論文

・日本私立看護系大学協会　平成20年度研究助成　受賞

［看護学研究奨励賞］（応募５件、採択２件）

堀内成子、片岡弥恵子、江藤宏美、松本直子

受賞論文：　Development of an evidence-based domestic violence guideline: Supporting perinatal women-centred care in Japan

［若手研究者助成］（応募16件、採択６件）

小林真朝

研究テーマ：「伴侶動物の介在による地域健康推進プログラムの開発」

・JA共済総研研究助成

大久保暢子

「自動車事故による頭部外傷を起因とした遷延性意識障害患者に対する背面開放座位の効果」

助成金額：100万円

助成期間：2008年10月～2009年９月）

（千葉療護センター、東北療護センター、中部療護センター、岡山療護センター、自動車事故対策機構）

・パラマウントベッド株式会社研究助成

大久保暢子

「脳卒中患者に対する背面開放座位保持具の改良を含めた“からだを起こす看護ケアプログラム”の修正」

助成金額：50万円

助成期間：2008年４月～2009年３月

（パラマウントベッド株式会社、札幌麻生脳神経外科病院、日本赤十字看護大学（川嶋みどり））

・平成20年度ホスピス緩和ケアにおけるQOLの向上に関する研究助成（日本財団　笹川医学医療研究財団）

鶴若麻理

「老人介護施設の看取り介護をめぐる意思決定に関する研究

助成金額：60万円

助成期間：2008年度

共同研究者：仙波由加里（桜美林大学総合研究機構研究員）

・国立高度専門医療センター等研究費

国際医療協力研究委託費20指定５　分担

田代順子

「大学院修士課程の「ウィメンズヘルス・助産・看護人材開発協力のカリキュラム、教材開発研究」

助成金額：24万円

助成期間：2008年度～2009年度

主任研究者：沖佐　保（国立国際医療センター）

分担研究者：堀内成子

・Megumi & Shigeo Takayama Foundation

亀井智子

「St. Luke's College of Nursing, Geriantric Care Project, Intergenerational Day Program 'St. Luke's Nagomi-no-kai' 2008 Annual Report」

助成金額：100万円

2009年３月

・財団法人明治安田こころの健康財団

亀井智子

「都市部における多世代交流型デイプログラムの実践的開発研究－高齢者の心の健康と小学生の高齢者観形成についての継続的比較」

助成金額：50万円

2008年10月

・花王株式会社

菱沼典子

「温罨法に関する共同研究」温罨法研究会を実施

助成金額：100万円

2008年９月

５）　特許等の申請

2008年度には、2件の特許申請、1件の実用新案申請を行った。

・特許願　整理番号SLUK08002　　受付番号50802372508

提出日　平成20年11月10日　　出願番号通知　特願2008-287590

発明者　亀井智子

特許出願人　　学校法人聖路加看護大学

「測定データ読取装置及びこれを用いたデータ読取・送信システム」

・実用新案願　整理番号SLUK08001　受付番号50802463093

提出日　平成20年11月21日　　出願番号通知　実願2008-　8176

考案者　亀井智子

実用新案登録出願人　　学校法人聖路加看護学園

「転倒事故予防教育用住宅模型」

・実用新案願　整理番号SLUK08003　受付番号50900407685

提出日　平成21年２月27日

出願番号通知　特願2009-　44938発明者　梶井文子

特許出願人　学校法人聖路加看護学園

「ケアサービスに関する情報を処理する装置および方法、並びにプログラム」

２．研究費の取得状況

１）文部科学省科学研究費補助金

平成20年度の文部科学省科学研究費の取得状況は、下表のとおりである。

2008年度文部省科学研究費交付内定一覧表　（単位：千円）

研究種目	継 新	氏　名	研　究　課　題	金額
基盤研究（A） （一般）	継 4 （２）	小松　浩子	患者と医療者が分かり合えるがんコミュニケーション促進モデルの開発と有用性検証	35,500 14,200
究（B） （一般）	継 4 （４）	田代　順子	看護学でのサービスラーニングを応用した都市型・社会参加型カリキュラム開発と評価	15,700 1,100
基盤研究（B） （一般）	継 4 （４）	片岡弥恵子	アジア文化圏に生きる女性へのＤＶ支援ガイドライン創生と検証	15,500 3,800
基盤研究（B） （一般）	継 3 （３）	萱間　真美	質的研究方法を用いた看護学の学位論文評価基準の作成に関する研究	15,000 2,500
基盤研究（B） （一般）	継 4 （３）	及川　郁子	子どものヘルスプロモーション促進への基礎教育における外来看護実習と外来看護の構築	14,600 2,000
基盤研究（B） （一般）	継 4 （３）	森　明子	排卵誘発剤を使用する女性が安楽に安心して過ごすためのセルフケア支援モデルの効果	15,300 3,800
基盤研究（B） （一般）	継 4 （３）	梶井　文子	認知症高齢者の学際的チームアプローチに関するケアの質評価システムの開発	15,500 1,800
基盤研究（B） （一般）	継 4 （２）	菱沼　典子	少子化社会の学生の特性に合わせた看護学導入プログラムの開発	10,500 4,500
基盤研究（B） （一般）	継 4 （２）	中山　和弘	インターネット情報に翻弄される患者、家族を支援する看護職のためのｅラーニング開発	11,300 3,100
基盤研究（B） （一般）	継 3 （２）	井部　俊子	サービスマネジメントをフレームワークとした看護管理学の体系化に関する研究	7,400 3,200
基盤研究（B） （一般）	継 4 （２）	江藤　宏美	乳幼児の睡眠分析システム情報共有プラットホームの構築	12,200 2,700
基盤研究（B） （一般）	継 3 （２）	亀井　智子	急増する在宅慢性呼吸不全患者の入院を予防するテレナーシングの日本への実践的導入	14,300 3,500
基盤研究（B） （一般）	継 4 （２）	麻原きよみ	地域看護における体系的倫理教育ラダーの開発と評価	12,600 3,800
基盤研究（C） （一般）	継 3 （３）	平林　優子	子どもの医療的ケアの自律的日常生活行動への導入に関する看護支援プログラムの作成	2,400 600
基盤研究（C） （一般）	継 4 （３）	大森　純子	前期高齢女性の近隣他者との交流関係を活用した主体的健康増進プログラムの開発	3,500 500
基盤研究（C） （一般）	継 2 （２）	小野　智美	日帰り手術に向けての幼児の自律性を支援する看護介入プログラムの評価への段階的研究	2,900 1,000
基盤研究（C） （一般）	継 2 （２）	永森久美子	生後 14 日間における母乳育児支援のための哺乳行動アセスメントツールの開発	3,600 500

研究種目	継 新	氏　名	研　　究　　課　　題	金額
基盤研究（C）（一般）	継 4（2）	長松　康子	アスベスト関連相談に関する保健師向けガイドラインの構築と評価	3,300 900
萌芽研究	継 2（2）	片岡弥恵子	Quality Indicator の開発：社会に対し出産ケアの質を保証するために	3,300 1,100
萌芽研究	継 2（2）	有森　直子	出生前検査の選択を考慮する女性をエンパワメントする包括的意思決定支援の介入研究	3,200 900
萌芽研究	継 2（2）	堀内　成子	ユビキタス IP-TEL 産科医療通訳システムの開発	3,200 2,000
若手研究（B）	継 3（3）	佐居　由美	看護師の「安楽なケア」実践を促進するためのプログラムの開発と評価	3,300 900
若手研究（B）	継 3（2）	大熊　恵子	病棟看護師が認識している統合失調症患者への退院支援の困難さの分析	1,100 200
若手研究（B）	継 3（3）	佐居　由美	看護師の「安楽なケア」実践を促進するためのプログラムの開発と評価	3,300 900
若手研究（B）	継 3（2）	大熊　恵子	病棟看護師が認識している統合失調症患者への退院支援の困難さの分析	1,100 200
若手研究（B）	継 3（2）	大久保菜穂子	市民との協働による健康支援ボランティア教育プログラムの開発	3,200 1,100
若手研究（ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ）	継 2（2）	糸井　和佳	都市部多世代交流型デイプログラムにおける世代間交流を促進する支援の開発	2,680 1,350
基盤研究（A）（一般）	新３	柳井　晴夫	臨地実習生の質の確保のための看護系大学共用試験（CBT）の開発的研究	33,100 11,200
基盤研究（B）（一般）	新５	外崎　明子	がんサバイバーの身体活力回復プログラムの構築と評価研究	13,100 3,200
基盤研究（B）（一般）	新３	堀内　成子	貴重児妊娠の不安を軽減するための就寝中胎動ホームモニタリングの実用化開発	15,000 6,700
基盤研究（B）（一般）	新４	有森　直子	女性のリプロダクション健康課題の意思決定支援教育コンソーシアムとプログラム検証	15,000 4,400
基盤研究（C）（一般）	新３	矢ヶ崎　香	がん医療における EBN と臨床実践の gap と波及モデルの開発	3,500 1,700
萌芽研究	新１	田代　順子	開発途上国看護職の国家間移動を押し止めるホールドファクターとしての現任教育の検討	1,500 1,500
若手研究（B）	新４	鶴若　麻理	アジアの高齢者の終末期医療をめぐる事前指示に関する国際比較研究	2,700 800
若手研究（B）	新３	佐竹　澄子	寝たきり患者の副交感神経優位を導く聴覚刺激	1,800 100
若手研究（B）	新３	大久保暢子	慢性期脳血管障害患者の寝たきりを防ぐ背面開放座位ケアプログラムの開発	3,300 2,100
若手研究（B）	新２	奥　裕美	夜勤から始める新人看護師オリエンテーションプログラムの開発とその評価	2,300 1,100
若手研究（B）	新３	市川和可子	がん体験者が伴走する Web 版乳がん患者サポートグループの開発	2,900 900
若手研究（B）	新４	平野　優子	在宅人工呼吸器装着 ALS 患者の困難と人生再構築支援ガイドライン作成への縦断的研究	3,200 600
直接経費				95,350

間接経費　26,955（分担者への配分金含む）

総件数　37 件　（継続　25　件　　新規　12　件）

注1）新欄の上段は研究年数を表示、下段カッコ書きは研究年次を表示しています。

注2）金額欄の上段は研究総額を表示、下段は2008年度分の研究費を表示しています。

2）厚生労働科学研究費補助金

2008 年度は、以下のとおり７件が採択された。

（単位：千円）

研究事業名	継　新	氏名	代表・分担	研究課題	金額
地域医療基盤開発推進研究事業	継 3（3）	萱間　真美	代表	精神科疾患を有する人の地域生活を支えるエビデンスに基づいた看護ガイドラインの開発	2,500
地域医療基盤開発推進研究事業	継 3（3）	小松　浩子	代表	市民参加型地域緩和ケアシステム「家で死ねるまちづくり」の開発と評価	4,000
がん臨床研究事業	継 3（3）	山田　雅子	分担	がん対策の実施基盤及び推進体制に関する国際比較研究	3,500
がん臨床研究事業	継 3（3）	廣岡　佳代	分担	がん対策の実施基盤及び推進体制に関する国際比較研究	2,000
第３次対がん総合戦略研究事業	継 3（2）	中山　和弘	分担	患者・家族・国民の視点に立った適切ながん情報提供サービスのあり方に関する研究	1.000
障害保健福祉総合研究事業	新 3（1）	萱間　真美	分担	精神障害者の退院促進と地域生活のための多職種によるサービス提供のあり方とその効果に関する研究	3,000
厚生労働科学特別研究事業	新 1（1）	萱間　真美	代表	精神障害者の訪問看護におけるマンパワー等に関する調査研究	5,000
当年度総合計					21,000

総件数　　７件

（注１）継新欄の上段は研究年数を表示、下段カッコ書きは研究年次を表示

3．研究活動を支える基金等

1）補助金の獲得

教員の研究活動を支える外部資金の獲得は、年々充実している。下表は過去10年間における文部科学省科学研究費補助金の獲得実績である。これによると、採択件数および金額ともに年々増加の一途を辿っており、また。新規採択率も50％を超え全国平均よりかなり高い率になっている。また厚生労働省科学研究費はじめ各種の研究助成にも積極的に応募し、研究費の獲得を目指している。

年度	採択件数	金額（千円）	申請件数		備考	新規採択率％
			継続	新規		
1999	14	21,100	7	11	継続１件辞退、 新規１件転入、継続１件転入	64
2000	16	30,400	9	13	継続１件転入	54
2001	16	44,000	10	12	間接経費 4,800 千円含む	50
2002	22	60,250	10	20	間接経費 5,250 千円含む	60
2003	24	61,040	15	16	継続１件辞退、継続１件転出、 継続１件転入、 間接経費 4,140 千円含む	56
2004	28	96,410	17	20	継続１件辞退、継続１件転出、 間接経費 6,270 千円含む	55

2005	29	85,970	19	15	継続 1 件辞退、間接経費 6,270 千円含む	67
2006	29	91,890	18	11	継続 1 件辞退、新規 1 件転出、継続 1 件転出、間接経費 12,090 千円含む	75
2007	34	105,670	18	21	継続 2 件辞退、新規 1 件転出、継続 2 件転出、継続 2 件転入、間接経費 21,570 千円を含む	81
〃 ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ	1	1,330		1		100
2008	38	123,384	25	14	継続 2 件転出、間接経費 26,955 千円（分担者への配分金を含む）	71
〃 ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ	1	1,070		2		50

2）サバティカルリーブ

教員の研究休暇制度としてサバティカルリーブ規程がある。本年度は菱沼典子教授および外崎明子准教授が取得した。

3）聖路加看護大学ミセス・セントジョン記念教育基金

聖路加同窓会の寄付によって設けられている本基金は、教職員の海外研修、海外からの大学人や看護専門職者の招聘を目的としている。1999年度より年間300万円程度を海外での学会発表、研修等に積極的に利用してきた。この基金の運用については、５年ごとに見直すことになっており、2009年３月31日まで５年間の延長が承認されている。

本年度は教員４名が海外出張の支援を受け、また海外からの招聘（海外間の派遣を含む）４件が適用され、総額2,726千円を支出した。詳細は下表のとおりである。

2008 年度ミセス・セントジョン記念教育基金実績

【派遣】

氏　　名	所　属	期　間	目　　的	費用実績（円）
外崎　明子	成　人 看護学	2008/2/14　～ 2008/2/19	2008 BMT Tandem Meetings (2008 American Society for Blood and Marrow Transplantation Research Meetings) に参加し研究成果を報告（訪問先　米国サンディエゴ）	498,118 円
江藤　宏美	研　究 センター	2008/5/26　～ 2008/6/6	第 28 回 The International Confederation of Midwives(ICM) (Glasgow, UK)の ICM 評議員会と ICM 大会に参加（訪問先　英国グラスゴー）	340,930 円
卯野木　健	成　人 看護学	2008/5/3～ 2008/5/8	American Association of Critical Care Nurses & National Teaching Institute への参加・研究発表（訪問先　米国シカゴ）	184,024 円
大久保暢子	基　礎 看護学	2008/8/10　～ 2008/8/24	Mayo Clinic において Certified Neuroscience Nurse Core Curriculum の概要を学ぶ（訪問先　米国ミネソタ州）	388,905 円

4 件　合計　1,411,977 円①

【招聘】

氏　　名	所　　属	期　　間	目　　的	費用実績（円）
堀内　成子	ウィメンズヘルス・助産学	2008/1/22　～　2008/1/24	2005 年に学術交流協定を締結したマヒドン大学スリラート校およびラマティボディ校（タイ）の両校学部長交代を期に、新学部長を本学に招聘する	476,569 円
亀井　智子	老　年看護学	2008/12/8　～　2008/12/14	大学院修士課程において、アルツハイマー病の第一人者を招聘し、老年看護学特論Ⅱの特別講義を行う 招聘者：Prof. Peter J. Whitehouse. MD. PhD. Case Western Reserve University, Department of Neurology, Integrative Studies.	337,750 円
堀内　成子	ウィメンズヘルス･助産学 研究科長	2008/6/3～　2008/6/12	本学前客員教授 Dr. Sarah E. Porter を招聘し、院生および教員との交流、論文作成のアドバイス、また専門分野である'INTRODUCTION TO HEALING TOUCH'について講義を行う	411,951 円
卯野木　健	成人看護学 NP 研究会	2008/7/13～　2008/7/18	ノースフロリダ大学大学院麻酔看護（Nurse Anesthetist Program）　John McDonough 教授を招聘し、米国の麻酔看護師の現状や課題、本邦における課題等について検討するため、日本における麻酔看護師の実現性を考慮する	88,675 円

４件　合計　1,314,945 円②

①＋②　　８件　合計　2,726,922 円

４．研究倫理審査委員会

本年度、菱沼典子（委員長）、伊藤和弘（副委員長）、亀井智子、白木和夫、森明子、山田雅子（以上学内）、桑原博道、小松康宏、関正勝（学外）、鶴若麻理（書記）で委員会が構成されたが、菱沼のサバティカル期間は及川郁子が交代した。12回の委員会を開催し、提出された研究計画書について審査を行った。通常審査93件、簡易審査4件（うち１件は通常審査扱い）計新規申請97件、期間延長･一部修正等12件の申請があった。新規申請者の内訳は教員44件（うち３件が簡易審査）、博士後期課程院生17件、修士課程34件（うち１件が簡易審査）、研究センター２件であった。審査の結果、新規申請について承認42件、条件付承認48件、保留４件、非該当１件、審査不能１件であった。条件付承認については、すべて修正が確認され、保留、審査不能についてはあらためて新規申請がされ、承認されている。期間延長･一部修正等の審査については、承認された。

また、４月に教員･大学院生対象の研究倫理審査セミナーを開催した。本年度より、大学院学生便覧に研究倫理に関する資料を掲載し、確認しやすい体制になった。

５．紀要

紀要委員会（委員：深谷計子・鶴若麻理・實崎美奈・田口瞳）では2009年３月に紀要第35号を発行（600部）した。原著１編、総説２編、論説１編、報告10編からなるものである。今年度は印刷業者と見積もり・別刷りに関して行き違いがあり、別刷りの表紙は論文名・著者名のないものとなってしまい、委員・事務局・業者との連絡を密にすることが次年度の課題の１つとなった。また、本学の紀要の質の向上のために、次年度からは論文の種類を①原著（査読有）、②研究報告（査読有）、③総説（査読有）、④論説（査読有）、⑤短報の５つとすることになった。